



2021年度 年主題「共に喜んで～すべての歩みの中～」

0・1・2歳児12月主題「うれしい」
月のねがい
◎保育者と共に、イエス様のお誕生の時であるクリスマスを楽しんで(0)◎イエス様のお誕生の時であるクリスマスを楽しみに待ち、祝う(1.2)◎クリスマスの雰囲気を楽しみ、絵本やさんびかに親しむ(1.2)◎遊びや生活の中で、思いを共有する経験をする(1.2)

3・4・5歳児12月主題「喜びいっぱい」
月のねがい
◎聖書に描かれているイエス様のお誕生の話を聴き、クリスマスを楽しんで待ちながら、共に喜び祝う(3)◎友だちと一緒に賛美したり踊ったりすることに喜びを感じる(3)◎寒さの中でも戸外での遊びを楽しむ(3)◎クリスマスの意味を知り、感謝と喜びをもって受け止め、礼拝する(4.5)◎困っている、悲しんでいる人に心を向け、祈りながら自分たちにできることを考えていく(4.5)



自分を信じる力

もう12月ですが、日中は動くともまだ半袖でも大丈夫なくらい陽気です。ホワイトクリスマスなんてほど遠いですが、いよいよ4日はこども園のクリスマス会です。96人全員でイエス・キリストの誕生をお祝いしようと思います。

最近、水泳選手の池江璃花子さんのお母さんの記事を読みました。お母さんは幼児教室を営んでいたようで、そこに通う子どもたちや我が子に、「自分を信じることの大切さ」を繰り返し伝えてきたそうです。自分の信じる心を育てるには、まずは親が子どもの可能性を信じること。「あなたならできる」「あなたには、まだまだ眠っている力があるよ」と語りかけてきたそうです。子どもはとて素直です。素晴らしいと言われれば「自分は素晴らしいんだ!」と思うし、「あなたには価値がない」と言われたらそう思い込んでしまう。璃花子選手にも「無限の力がある!」と言い続けたのだそうです。親が天井を作らずに「もっと上に行ける」と励まし続けると、子どもは親が想像つかないほどの成長を見せてくれるのだそうです。子どもには、無限の可能性がります。その可能性を生かすも殺すも、周りの環境次第だということを、改めて感じました。

一日の中で、保護者の方と過ごす時間よりもこども園で過ごす時間の方が長い子どもたち。卒園・進級まで残り4ヶ月となりました。まだまだ力不足ですが、私たち保育者も子どもたちの無限の力を信じ、励まし続けていかなければ…と思うことでした。

森山



12月の行事予定

4日(土)	クリスマス会
8日(水)	もちつき大会
10日(金)	絵本の会クリスマス公演
14日(火)	12月誕生会・試食会(たんぼほ)
17日(金)	終園式(1号:午前保育)
28日(火)	御用納め(弁当日)

1月の行事予定

4日(火)	御用始め
11日(火)	始園式(1号:午前保育)
12日(水)	1月生まれ誕生会
21日(金)	おゆうぎ会予行(弁当日)
29日(土)	おゆうぎ会
31日(月)	振替休日

今月の聖句 「今日ダビデのまちで、あなたがたのために救い主がお生まれになりました」

ルカ2:11

イエス・キリストが誕生させた時代のユダヤの国は、巨大なローマ帝国の支配下がありました。ユダヤの歴史は、侵略に次ぐ侵略の歴史です。ですから、敵国からユダヤの民を解放してくれるメシア、救い主が待望されました。当時のユダヤ人が思い描いたメシア像には三つのイメージがあったと言われます。それは、預言者、祭司、そして王としてのイメージです。

彼らはメシアの中に、真実の力ある預言者を求めました。嘘ではない、いい加減なことではない、ここにこそ真実があるのだと、神の言葉を、真実の説得力を持って語り聞かせる預言者のような救い主です。また、祭司をも求めました。自分のような者のために、真実に執り成しおしめて、自分を神の御子と立てた者を探して求めました。職業として、ただ、そのお勤めを果したすだけという祭司ではなく、真実の祈りをなし、そのからだを張ってでも、神と民との中継ぎをしてくれる祭司のような存在を求めたのです。そして、真実の王としてのメシア像です。権力に酔わず、すぐに暴力に訴えて人々を抑えつける王ではなく、民が豊かに生きることが出来ると思えるような王を求めました。

「ダビデの町」と呼ばれたベツレヘムでイエスさまは誕生されました。ダビデはイスラエル王国二番目の王となった人物です。その町で、ダビデ自身を遙かに超えた救い主がお生まれになりました。このイエス・キリストは特定の民族の王・祭司・預言者であるのではなく、全世界の王・祭司・預言者なる存在、私たちの救い主なのです。

協力牧師 池田基宣



1号認定児 入園申込み受付開始
12月1日(水)
ご紹介を宜しくお願いします!

兄弟にほほえみかけ、助けの手を差し伸べるたびに、それがクリスマスなのです。

マザー・テレサ



雪の中で、今年もあと一月となりました。前年と同様、コロナによる制約の多い年でしたが、東京オリンピックのメダル獲得ラッシュや松山選手のマスターズに加え、笹生選手の全米女子オープン制覇、そしてなんと言っても大谷選手の大活躍、MVP選出など、特にスポーツでの嬉しい知らせが多かったように感じました。各ご家庭でも、記憶に残る悲喜こもごもの出来事があったことでしょう。

さて、クリスマスが近づきますと、キリスト教会では「アドベント(待降節)」という期間を守ります。クリスマス(12月25日)直前の日曜日から数えて四つ前の日曜日に始まり、クリスマスに至る教会暦上のシーズンです。クリスマスは、イエス・キリストが生まれた日とされていますが、正確にはいつ生まれたのかは分かりません。聖書には、「イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった」とあり、聖書の記述が正しいならば、イエス様は紀元前四年以前に生まれたこととなります。この期間、こども園の礼拝での園長の聖話は、クリスマスにちなんだ絵本朗読やお話をします。その中の一つに「ゆきのひのおくりもの」があります。

雪の中で、今年もあと一月となりました。前年と同様、コロナによる制約の多い年でしたが、東京オリンピックのメダル獲得ラッシュや松山選手のマスターズに加え、笹生選手の全米女子オープン制覇、そしてなんと言っても大谷選手の大活躍、MVP選出など、特にスポーツでの嬉しい知らせが多かったように感じました。各ご家庭でも、記憶に残る悲喜こもごもの出来事があったことでしょう。

さて、クリスマスが近づきますと、キリスト教会では「アドベント(待降節)」という期間を守ります。クリスマス(12月25日)直前の日曜日から数えて四つ前の日曜日に始まり、クリスマスに至る教会暦上のシーズンです。クリスマスは、イエス・キリストが生まれた日とされていますが、正確にはいつ生まれたのかは分かりません。聖書には、「イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった」とあり、聖書の記述が正しいならば、イエス様は紀元前四年以前に生まれたこととなります。この期間、こども園の礼拝での園長の聖話は、クリスマスにちなんだ絵本朗読やお話をします。その中の一つに「ゆきのひのおくりもの」があります。

雪の中で、今年もあと一月となりました。前年と同様、コロナによる制約の多い年でしたが、東京オリンピックのメダル獲得ラッシュや松山選手のマスターズに加え、笹生選手の全米女子オープン制覇、そしてなんと言っても大谷選手の大活躍、MVP選出など、特にスポーツでの嬉しい知らせが多かったように感じました。各ご家庭でも、記憶に残る悲喜こもごもの出来事があったことでしょう。

さて、クリスマスが近づきますと、キリスト教会では「アドベント(待降節)」という期間を守ります。クリスマス(12月25日)直前の日曜日から数えて四つ前の日曜日に始まり、クリスマスに至る教会暦上のシーズンです。クリスマスは、イエス・キリストが生まれた日とされていますが、正確にはいつ生まれたのかは分かりません。聖書には、「イエスは、ヘロデ王の時代にユダヤのベツレヘムでお生まれになった」とあり、聖書の記述が正しいならば、イエス様は紀元前四年以前に生まれたこととなります。この期間、こども園の礼拝での園長の聖話は、クリスマスにちなんだ絵本朗読やお話をします。その中の一つに「ゆきのひのおくりもの」があります。

クリスマスを迎えるにあたって

クリスマスはイエス・キリストの誕生を祝う日です。約2千年前、ベツレヘムの小さな馬小屋でイエス・キリストは生まれました。イエスを通して、神様からのメッセージを私たち人間に示されました。それは、戦争や餓え、不当な搾取や抑圧に苦しんでいる人たちが、自分自身の中で葛藤し悩んでいる人たちの希望の光となるためです。

私たち保育者は、キリスト教教育を目指す園として、いかなる人も希望の光を持ってこの世の中で生きてほしいと願います。それは見えるものではありませんが、見えないものにこそ大事なことがあることを信じて保育をし、子どもたちにもそのクリスマスのメッセージを伝えていきたいです。

☆ひとりひとり神様に命を頂いて生きていること
☆ひとりひとり大切な働きが与えられていること
☆いい事も悪い事も選択できる自由が与えられていること

その自由の中、自分で考え、自分で選択し、自分で実行する時に、自己実現がなされます。その一人一人が選択した行いが神様に喜ばれる時、心も体も喜びに満たされ、希望の光として受け入れられるのです。たとえそれがほんの小さな行いだったとしてもです。

サンタクロースについて

サンタクロースの原型になったのは、4世紀初め頃のキリスト教聖職者、聖ニコラウスだと言われています。伝説によれば、ニコラウスはその相続財産を貧しく困っている人たちに分け与え、誘拐された子どもたちを助けたのだそうです。

クリスマスの絵本に「おばあさんのスープ」という絵本があります。(女子パウロ会出版)

一人暮らしのおばあさんが、雪の降るクリスマスの晩に、小さなお鍋でスープを作りました。食べようとしていた時、森からその匂いを嗅ぎつけてウサギやくま、きつね等次々に訪ねてきます。気のいいおばあさんは小さな皿にスープを分け、皆で食べたと言うお話です。皆で食べたほんの少しのスープはとても美味しく、寒さで凍えた体と心をほんのり温かくしてくれました。

クリスマスは神様が私たちに贈って下さったメッセージを思い出させてくれます。それは、あなたも私もみんな神様に愛されているのだということ。その喜びをみんなと分かち合うとき、小さな喜びはもっと大きくなります。そしてもっと幸せになります。今年も子どもたちや保護者の方々と、クリスマスの意味を考えお祝いしていきましょう。

園長

園長